

FESTINA LENTE

2020 2・3月号
HIGHLIGHTS

- ・第32回高校卒業式が行われる。
- ・中学校卒業生の表彰者。
- ・大学入試合格速報！
- ・後期プレゼン大会開催！

第32回卒業証書授与式が行われる。 ~卒業生113名~

3月1日(日)第32回卒業証書授与式が本校体育館で行われました。32回生の卒業生は113名、このうち10期生となるAPU立命館コースは22名でした。

今年度の卒業式は新型コロナウイルス感染症対策として保護者・来賓の方々の参加をご遠慮いただき、在校生についても高2の各クラス代表のみ出席というという極めて異例の形での開催となりました。

式は国歌斉唱で始まりましたが、例年であれば校長から生徒一人一人に手渡していた卒業証書を今年度はクラス代表が受け取る形とし、時間短縮に配慮いたしました。

つづいて校長からの式辞、理事長からの告示があり、このあと、在校生を代表し高校2年生の松本悠杜君が送辞を、卒業生を代表して白石真之輔君が答辞を述べました。最後は全員で校歌を歌い、卒業生は在校生代表と職員の拍手に送られながら式場を後にしました。

《理事長賞》

河野 信寛、紅葉 日々希、石井 良治
田中 真紀、中丸 和哉、前田 悠成
(以上6名)

《A P U立命館コース優秀賞》

田畑 真和李 ※留学中につき当日不在

《皆勤賞》

岩田 真依、浦田 健志郎、渡邊 広希
上野 晃一朗、河野 信寛、佐藤 桃香
東山 由奈、井野 恭輔、佐藤 璃音
秦 知優、中丸 和哉、藤澤 健
藤本 奈菜葉 (以上13名)

《大分県知事賞》

中丸 和哉

《日本私立中高連会長賞》

山村 遥花

《高校生新聞社賞》

安藤 莉沙

《大分県私学保護者会長賞》

秦 知優

(送辞) 松本 悠杜

(答辞) 白石 真之輔

(記念品目録贈呈) 今村 奏太



↑
松本
悠杜
さん



↑
白石
真之輔
さん



↑
今村
奏太
さん

↑
記念品目録

学園だより

第32回卒業証書授与式式辞 ~変革期での環境適応能力~

校長 柳井 修

日増しに春の訪れを感じる今日この頃、32回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。岩田高等学校は、本日ここに、令和元年度の卒業生 I W A T A コース91名、A P U 立命館コース22名、計113名に卒業証書を授与いたしました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。岩田で学んだものを糧に、希望に満ちて旅立たれる皆さんをお送りすることは、私ども教職員にとって、至上の喜びであります。

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、文部科学省の指針もあり、本校は保護者、来賓の式のご臨席をご遠慮して頂きました。卒業式の出席を心待ちにしていた保護者の皆様にはたいへん申し訳ありません。開校以来初めてのことであり、我々職員も無念の極みであります。心からお詫び申し上げます。

保護者の皆様には、今までのこの18年間、様々なご苦労があったことと推察いたしますが、お子様を支え、育まってきたことに対して敬意を表するとともに、これまで本校にご協力、ご支援いただきましたことを、心より感謝申し上げます。

岩田学園に入学した生徒には、毎年必ず理事長から「君たちはどう生きるか」と言う本が渡されます。本校では1回生からずっと37年間、理事長のプレゼントとして配られている本です。

「君たちはどう生きるか」は漫画本にもなり、ベストセラーとなつて話題となりました。私が初めてこの本を読んだのは高校時代です。最初は同年代のコペル君になりきって読みました。このとき私が特に印象深かったのは、ニュートンが万有引力の法

則の発見した有名な話でした。リンゴが木から落ちる。もっともっと高いところからだとどうなるのか。月は落ちて来ない。じやあ地球に万物を引きつける力がある。このとき高校生の私は知的探求心の大切さとおもしろさを学びました。

二度目に読んだのは、長女が岩田に入学した時。頂いたこの本を懐かしがつてもう一度読みました。このときは私が40歳のころ、登場人物の叔父さんの立場になり読んだ気がします。このとき私の印象に残ったことは、ヒトと社会との関わり合いでした。ヒトは、水分子だ。たとえどんなものでも、たくさん的人が関わっている。世の真理を学ぶためには、自己中心的な考え方だけでなく、自分を世の中の構成員の一人としてとらえるような俯瞰（ふかん）的な視点を獲得しなくてはならない。そんなことを私も今の子供たちに伝えたいと思いました。

そしてマンガ本となった「君たちはどう生きるか」を読むと、視覚効果もあってか友達の心情が心に響きました。私はこの本を読む度に感じ方が変わり、新鮮な感銘を受けます。みなさんはどうだったでしょうか。

先代の岩田理事長が中高一貫の進学校を37年前に大分県で初めて開校するに当たり、この本を新入生に渡した思いは何だったのでしょうか。私は、君たちに岩田学園にいる間、「君たちはどう生きるか」という答えのない宿題を入学の時に出されたのだと思います。現在この本を新入生に贈ることは、成瀬現理事長にも引き継がれています。

「君たちはどう生きるか」

この学校で友と学び、友と笑い、また友と泣き、この岩田でその答えを掴むことができたでしょうか？今君たちは、岩田を離れ大海に向かい船を漕ぐ、青空に翼を広げ羽ばたこうとしています。

「君たちはどう生きるか」

今君たちの胸に秘めた志は何ですか？大海や青空に道はなくとも強い志こそが君たちの羅針盤になります。大志や可能性を持つことが若者の特権です。そして、志は生き方でもあります。

「君たちはどう生きるか」

たとえ今それを掴むことができていない32回生にも母校岩田は、いつでも優しく語りかけます。

今回の新型コロナウイルスの流行は、たいへん残念な出来事です。しかし、過去にあったSARSや新型インフルエンザなどの疫病、また東日本大震災や阪神淡路大震災などの災害は、ある日突然やってきます。人がどんなに勤勉に努力してもすべてを奪われてしまうこともあります。我々はその度に疫病や災害と対峙し、そして受け入れ、力強くまた立ち上がらなければならないのです。

本校のモットーは「Festina Lente」「ゆっくり急げ」です。その力は、君達の中にこの岩田で必ず培われています。これから32回生諸君が、多くの人と出会い、成長し続け、新しい時代を切り開く原動力となっていくことを心から祈り、式辞といたします。本日はご卒業、本当におめでとうございます。



↓理事長賞
河野信寛さん
(代表)



↓大分県知事賞
中丸和哉さん



↓私立中高連会長賞
山村遥花さん



↓APU立命館コース
田畑真和李さん
優秀賞
※留学中につき当日不在



↓皆勤賞
岩田真依さん
(代表)



↓高校生新聞社賞
安藤莉沙さん



学習到達度検証試験終了後の12月から2月にかけて、高等学校APUコース3年生は、大学入学後の学習と生活への橋渡しを目的とした様々な研修プログラムに参加しました。提携校ならではのサポートで、充実した大学スタートダッシュに繋げる狙いです。以下は各プログラムの報告です。

■ APUキャンパス訪問デー 12月15日(日)

APU進学予定の生徒は終日APUでのガイダンスに参加しました。英語力診断テストを受験し、その日のうちに結果を受け取り、英語力のレベル毎に入学までの英語課題（オンライン学習）が設定されました。この課題は入学後も継続して学習していくシステムとなっています。また、これ以外にも入学までに取り組むべき英語学習の内容や視点についてもレクチャーを受けました。

国語に関しては高等学校までに学習した常用漢字、故事成語、慣用句などの復習と暗記、また近現代文学を中心に文学史の復習をしておくことを、社会科に関しては日本史や世界史の教科書を読み返して歴史の大きな流れを理解しておくこと、新聞を読む習慣を身に付けておくことを薦められました。

特にAPM（国際経営学部）へ進学予定の生徒に対しては、数学の復習に注力するようにとのアドバイスもありました。この学部には数学の必修科目が設定されており、学部卒業にはこれらの単位取得が必要であるためです。

学習面以外では、生活面の自己管理ができるようにしておくこと、大学で何をしたいかについての目標を明確にしておくことが重要であるとの説明がなされました。

■ 提携校出身進学者事前ガイダンス 1月8日(水)

全生徒が参加した事前ガイダンスでは、学校法人立命館一貫教育部（京都）職員1名と、本校APUコース卒業生2名（現・APU及び立命館大学在籍者各1名）を講師に招いての研修が行われました。一貫教育部職員の方からは、1・2月の大学入学前の時期がいかに大切であるか、また高等学校までの学習と大学での学びの違いについて講話が行われました。一般入試で入学する学生に一步先んじて準備できることの利点を生かせるよう、工夫して自発的に取り組むことが大事とのことでした。

本校卒業生からは、入学後の履修や生活について、本校APUコースをよく知る先輩ならではの視点から具体的なアドバイスがありました。講義の履修登録については各自がシラバスを熟読し、4年間全体を見据えて計画的に申請することが強調されました。サークル活動や一人暮らしなどについての話題もあり、大学入学後をよりはっきりとイメージする手助けとなつたことと思われます。先輩を囲んだ座談会では積極的に質問も飛び交い、様々な疑問や不安が解消されたようです。

■ 立命館大学入学期前ガイダンス 2月5日(水)

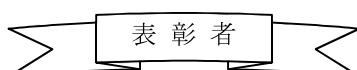
立命館大学経済学部に進学予定の生徒は、京都びわこ・くさつきキャンパスで行われた入学期前ガイダンスに参加し、経済学を学ぶ上での準備について詳しい説明を受けました。実際に進学するキャンパスを訪れ、他校から進学する生徒と顔を合わせることで、あらためて大学進学へのしっかりした心構えをもつことができたものと思われます。

中学卒業生について

本来であれば3月24日(火)に3学期終業式と併せて中学卒業証書授与式を実施するところではありました。休校期間中ということで式典は中止といたしました。中3生はもちろん、お子様の学園生活における節目として楽しみにされていた保護者の皆様に対しても、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

まだお渡ししていない卒業証書につきましては、学校再開後速やかに授与の機会を設ける予定としておりますので、ご承知おき下さい。

今回は、中学卒業生の表彰者をご紹介いたします。



[理事長賞](5名)

石井 花音、浦部 織、栗林 杏奈、高野 琉音、吉岡 瑞子

[皆勤賞](20名)

相本 莉愛、安部 竜馬、内田 雅貴、柏木 大和、鎌田 愛加
後藤 一貴、高野 咲音、田崎 和 (以上 3-1)

甲斐 未来哉、香嶋 いろは、中島 誠悟 (以上 3-2)

猪原 美羽、内田 樹希、工藤 才幹、佐藤 大輔、篠原 幸環
高野 琉音、帶刀 勇人、西田 凌、三浦 大和 (以上 3-3)

[日本私立中学校高等学校連合会会長賞]

西田 凌

[大分県私学保護者会長賞]

藤澤 聰太

強歩大会が行われました

1月は「体力強化月間」として体育の授業で3分間走を取り入れて迎えた「強歩大会」も今年で11回目となりました。昨年同様、土曜日に実施し、更衣・朝礼後、体育館で校長より激励の言葉、看護師紹介（OG26回生、竹林穂香さん）新体育委員長の薬師寺寿邦君より挨拶の後、諸注意を受け9時30分スタートとなりました。大分川東側河川敷をスタートし滝尾橋・弁天大橋先を折り返しゴールという、1周4kmのコースを男子は3周（約12km）、女子は2周半（約11km）のコースで行われました。前日の雨が嘘のような快晴のもと、強歩大会には適したコンディションで、中学1年から高校2年までの男女が一齊にゴール地点を目指しスタートしました。早朝より、風も強く追い風・向かい風の中でしたが、今回も大会を通して自分の体力や精神力を向き合いました。

体育科 阿部 順三

合う良い機会となったのではないかと思います。また昨年に続いて保護者会から、ゴール後に体育館で温かいココアとコーンスープの炊き出しが提供され、生徒の疲れた身体を癒やしてくれました。

今回も体育委員の生徒、保護者会などの御協力により無事終えることができました。心から感謝申し上げます。



2020年度大学入試合格速報

~3月25日現在~ 32回生113名(既卒含)

東京大, 京都大, 一橋大, 九州大(医), 国公立大(医歯)計13名合格!
医・歯・薬・獣医に計68名の合格! (ただし、看護・医療系を除く)

国公立大学

岩手大	(教育)
筑波大	(人間 心理)
東京大	(理科一類)
東京外国语大	(国際社会)
一橋大	(社会 社会)
信州大	(農 農生命)
京都大	(法)
京都大	(理 理)
広島大	(理 数学)
鳥取大	(医 医)
九州大	(医 医)
九州大	(医 医)
九州大	(歯 歯)
九州工業大	(工 2類)
九州工業大	(工 3類)
長崎大	(医 医)
長崎大	(歯 歯)
熊本大	(工 機械数理)
大分大	(福祉健康科学 心理)
大分大	(経済)
大分大	(理工 創生一機械)
大分大	(理工 創生一機械)
大分大	(理工 創生一電子)
大分大	(理工 創生一建築学)
大分大	(理工 共創一知情報)
大分大	(医 医)
大分大	(医 看護)
鹿児島大	(農 農業生産科学)
鹿児島大	(水産)
琉球大	(理 海洋自然科学)
北九州市立大	(法 法律)
大分県立看護科学大	(看護)
名桜大	(国際)

私立大学

北海道医療大	(歯 歯)
国際医療福祉大	(医 医)
国際医療福祉大	(薬 薬)
国際医療福祉大	(福岡薬 薬)
国際医療福祉大	(福岡薬 薬)
獨協医科大	(医 医)
明海大	(歯 歯)
青山学院大	(文 日本文)
青山学院大	(理工 機械創造工)
北里大	(海洋生命科学)
慶應義塾大	(文 人文社会)
慶應義塾大	(商 商)
白百合女子大	(文 国語国文)
昭和大	(医 医)
昭和大	(薬 薬)
昭和女子大(人間文化 日本文)	

専修大	(ネットワーク情報)	龍谷大	(法 法律)	筑紫女学園大(人間科学 初等)
多摩大	(経営情報)	龍谷大	(法 法律)	福岡看護大 (看護 看護)
中央大	(法 政治)	大阪経済大	(経済)	中村学園大 (教育 児童教育)
中央大	(商 (経営))	大阪歯科大	(歯 歯)	福岡大 (法 法律)
中央大	(商 会計)	大阪産業大	(経済)	福岡大 (法 法律)
津田塾大	(総合政策)	大阪産業大	(経営 経営)	福岡大 (理 ナノサイエンス)
帝京大	(医 医)	大阪薬科大	(薬 薬)	福岡大 (工 機械工)
東海大	(工 医用生体工)	大阪大谷大	(薬 薬)	福岡大 (工 機械工)
東京歯科大	(歯 歯)	関西大	(社会 心理学)	福岡大 (工 社会デザイン工)
東京歯科大	(歯 歯)	関西大	(政策創造 政策)	福岡大 (工 建築)
東京歯科大	(歯 歯)	関西外国語大(外国語 英米語)	福岡大 (医 医)	(医 医)
東京農業大	(農 農)	関西外国語大(英語国際 英語)	福岡大 (医 医)	(医 医)
東京農業大	(農 農)	近畿大	(総合社会 心理系)	福岡大 (医 医)
東京理科大	(基礎工 生物工)	近畿大	(法 法律)	福岡大 (医 医)
東邦大	(理 生物)	近畿大	(法 法律)	福岡大 (医 医)
日本大 (国際関係 国際総合)	日本大 (国際関係 国際総合)	近畿大	(工 機械工)	福岡大 (薬 薬)
日本大 (経済 経済)	日本大 (経済 経済)	近畿大	(農 水産)	福岡大 (薬 薬)
日本大	(歯 歯)	近畿大	(医 医)	(薬 薬)
法政大 (社会 社会政策科学)	法政大 (社会 社会政策科学)	関西学院大	(人間福祉)	福岡大 (薬 薬)
武蔵野大 (グローバル)	武蔵野大 (グローバル)	兵庫医科大	(医 医)	福岡歯科大 (口腔歯)
明治大 (法 法律)	明治大 (法 法律)	兵庫医科大	(医 医)	福岡歯科大 (口腔歯)
明治大 (経営)	明治大 (経営)	武庫川女子大	(薬 薬)	福岡歯科大 (口腔歯)
明治大 (農 農)	明治大 (農 農)	武庫川女子大	(薬 薬)	福岡歯科大 (口腔歯)
明治大 (農 農)	明治大 (農 農)	武庫川女子大	(薬 薬)	福岡歯科大 (口腔歯)
明治学院大 (法 消費情報)	明治学院大 (法 消費情報)	岡山理科大	(理 動物)	福岡女学院大 (人文 言語)
早稲田大 (文 文)	早稲田大 (文 文)	岡山理科大	(理 動物)	福岡女学院大 (人間 心理)
早稲田大 (文 文)	早稲田大 (文 文)	岡山理科大	(工 機械)	福岡女学院大 (人間 子ども)
早稲田大 (教育 国語国文)	早稲田大 (教育 国語国文)	岡山理科大	(獣医 獣医)	福岡女学院大 (人間 子ども)
早稲田大 (文化構想)	早稲田大 (文化構想)	川崎医科大	(医 医)	福岡女学院大 (人間 子ども)
早稲田大 (文化構想)	早稲田大 (文化構想)	広島修道大	(法 法律)	西南女学院大 (人文 英語)
早稲田大 (国際教養)	早稲田大 (国際教養)	広島文教大	(人間科学 心理)	西南女学院大 (保健福祉)
早稲田大 (法)	早稲田大 (法)	日本赤十字広島看護大	(看護)	西南女学院大 (保健福祉)
早稲田大 (政治経済 政治)	早稲田大 (政治経済 政治)	徳島文理大	(薬 薬)	九州情報大 (経営情報)
早稲田大 (商)	早稲田大 (商)	松山大	(薬 医療薬)	日赤九州国際看護大 (看護)
早稲田大 (スポーツ科学)	早稲田大 (スポーツ科学)	九州産業大	(地域共創)	長崎外国語大 (外国語 英語)
麻布大	(獣医 獣医)	九州産業大	(理工 電気工)	崇城大(工 宇宙一航空整備学)
鶴見大	(歯 歯)	九州産業大	(建築都市工 建築)	崇城大 (情報 情報)
金沢医科大	(医 医)	九州産業大	(建築都市工)	九州看護福祉大 (看護)
金沢医科大	(医 医)	九州産業大	(臨床心理)	日本文理大 (経営経済)
愛知学院大	(薬 医療薬)	久留米大	(法)	別府大 (食物栄養科学)
京都外国語大(外国語 ドイツ)	京都外国語大(外国語 ドイツ)	久留米大	(法)	別府大 (食物栄養科学)
京都女子大 (文 英文)	京都女子大 (文 英文)	久留米大	(法)	APU (アジア太平洋)
同志社大 (商 商学総合)	同志社大 (商 商学総合)	久留米大	(法)	APU (アジア太平洋)
同志社大(理工 化学システム)	同志社大(理工 化学システム)	久留米大	(経済)	APU (アジア太平洋)
立命館大 (文 人間研究)	立命館大 (文 人間研究)	久留米大	(経済)	APU (アジア太平洋)
立命館大(総合心理 総合心理)	立命館大(総合心理 総合心理)	久留米大	(経済)	APU (国際経営)
立命館大(産業社会 現代社会)	立命館大(産業社会 現代社会)	久留米大	(商 商)	APU (国際経営)
立命館大 (国際関係)	立命館大 (国際関係)	久留米大	(商 商)	APU (国際経営)
立命館大 (法 法)	立命館大 (法 法)	久留米大	(医 医)	APU (国際経営)
立命館大(政策科学 政策科学)	立命館大(政策科学 政策科学)	久留米大	(医 医)	APU (国際経営)
立命館大 (経済 経済)	立命館大 (経済 経済)	久留米大	(医 医)	APU (国際経営)
立命館大 (経営 経営)	立命館大 (経営 経営)	久留米大	(医 医)	APU (国際経営)
立命館大 (理工 環境都市工)	立命館大 (理工 環境都市工)	西南学院大	(外国語 外国語)	APU (国際経営)
立命館大 (生命科学 生物工)	立命館大 (生命科学 生物工)	西南学院大	(法 法律)	APU (国際経営)
立命館大(情報理工 情報理工)	立命館大(情報理工 情報理工)	西南学院大	(人間科学 心理)	宮崎国際大 (国際教養 比較)
立命館大	(薬 薬)	西南学院大	(人間科学 心理)	九州保健福祉大 (薬 薬)
立命館大 (スポーツ健康科学)	立命館大 (スポーツ健康科学)	日本経済大	(経済 経済)	九州保健福祉大 (薬 薬)
龍谷大 (法 法律)	龍谷大 (法 法律)	日本経済大	(経済 商)	第一薬科大 (薬 薬)
龍谷大 (法 法律)	龍谷大 (法 法律)	第一薬科大	(看護 看護)	九州保健福祉大 (薬 薬)

第35期生徒会

『Reborn』

～新しい岩田へ～

2019年度の3学期より、第34期の生徒会が発足しました。新生徒会役員による今後の意気込み・抱負をご紹介します。

【生徒会長 武内 慧光】

より良い岩田を求め、全力で駆け抜けます。どうぞよろしくお願ひします。

【副会長 平川 遼】

一生懸命、生徒会長をサポートしていきます。よろしくお願ひします。

【副会長 山田 陽子】

執行部の一員として、仕事を確実に果たしていきます。1年間よろしくお願ひします。

【庶務 上運天 里奈】

自分にできることを精一杯していきます。よろしくお願ひします。

【庶務 山月 義友】

庶務としての仕事を全うしていきます。よろしくお願ひします。

【文化委員会 武田 真歩・芦原 華穂】

岩田の文化活動をより良いものにしていきます。1年間よろしくお願ひします。

【体育委員会 薬師寺 寿邦・金城 瀬里奈】

全力で体育行事を盛り上げます。みんなで楽しくスボリ

ましょう！1年間よろしくお願ひします。

【美化委員会 東 桃羽・木村 航太郎】

皆さんのが自然とごみの分別ができるような学校にしていきます！ご協力よろしくお願ひします。

【図書委員会 局 日菜子・板山 蒼空】

新しい試みを多く取り入れ、皆さんのが行きたくなるような図書室を作ります。是非来て下さい！1年間よろしくお願ひします

【広報委員会 遠藤 大希・神田 百花】

分かりやすく親しみやすい新聞をつくりたいと思います。1年間よろしくお願ひします。

【保健委員会 佐藤 寿哉・高橋 未羽】

岩田生全員の健康をサポートするために、新しい取り組みを入れて頑張っていきます。1年間よろしくお願ひします。

【ボランティア委員会 大戸 利音・宮崎 蒼良】

ボランティア活動にもっと興味を持ってもらえるように頑張ります。よろしくお願ひします

【生活委員会 奥 拳士朗・原田 勝治】

岩田学園がより良くなるように全力を尽くします。よろしくお願ひします。

生徒指導部より

お子様が自転車通学している保護者の方々へ

2019年度、本校生徒の登下校中における自転車事故は3件という比較的少ない数にとどまりました。しかし、大分県の中学生、高校生の交通事故は決して減少傾向にあるわけではなく、近頃のロードバイク人気の影響もあり、事故件数は増加しているようです。

このような状況ですので、本校に自転車で通っているご家庭におかれましては、最大の用心をして自転車通学に臨むように話し合いの場を設けて頂きたいと思います。学校として遵守して頂きたい注意事項を記載しておきます。

●朝は時間に余裕を持って登校しよう。

遅刻ギリギリでスピードを出している時は余裕もなく事故に遭いやすいです。余裕を持つためには何時に起床するべきか、そして何時に家を出るべきか一度話し合いましょう。

●スピードが出るような作りの自転車に注意！

ロードバイク等がとても流行っています。スピードを出していると、交差点での減速が面倒になり、つい飛び出してしまうことがあります。通学に適した自転車かどうか一度話し合ってください。

●重い荷物の持ちすぎに注意！

特にロードバイクの場合は自転車にカゴを付けることを

生徒指導主任 野村 哲也

嫌う傾向があり、荷物を背負ったりして通学している生徒を見かけます。重たい荷物を身につけての運転は、いざという時に操縦ミスを起こす原因となりますので、お子様の通学時の様子を一度ご確認ください。

●ヘルメットを着用しよう。

ヘルメットは見た目が悪かったり面倒臭いことを理由にほとんど着用する生徒がいませんが、万が一の時に命を守ってくれるとても大切なアイテムです。学校としましては着用をお勧めします。一度お子様と話し合ってください。

※自宅でも2ロックの用心をお願いします。

先日、大分中央署の生活安全課から連絡があり、自宅での自転車盗難被害が増えていますので、学校での注意奮起をお願いします、ということでした。自宅ということで、油断している自転車が狙われているということみたいですね。さらに犯行は複数人で行われるケースが多く、1つだけのロックであれば数秒で解除されてしまうそうです。

各ご家庭におかれましては、自宅敷地内であっても油断することなく2つ以上の鍵を閉めるなどの対策をお願いいたします。

今年度のAPU・立命館コース5年4組の「マレーシア修学旅行」、新型コロナウイルス感染症流行の兆しが見える時期にあたり、中止も検討される状況でしたが予定通り出発することができました。2月11日から18日まで、7泊8日の行程です。

初日、まだ夜の明けきらぬ早朝にも関わらず多くの保護者の皆様、先生方のお見送りを受けながら学校を出発。福岡空港からシンガポールのチャンギ空港を経由して、マレーシアのクアラルンプールに移動しました。福岡空港出発がやや遅れたものの、無事チャンギ空港に到着。乗り継ぎ便のフライトも揺れは少なく、快適な空の旅でした。長時間のフライトでしたが、生徒たちは体調も良く、シンガポール航空の機内食も美味しく頂きました。夕食はレストランで中華に舌鼓。お腹一杯になりました。

2日目はクアラルンプール市内観光。王宮、国家記念碑、回教寺院、独立広場、バツー洞窟、ツインタワービルを訪れました。途中、チョコレートショッピングや民芸品店にも立ち寄り、お土産選びも楽しんでいたようです。現地ガイドのウォンさんが、流暢な日本語で各場所で説明をしてくださり、マレーシアの文化・歴史・経済について理解を深めることができました。マレー系、中国系、インド系などの人々が融和し、それぞれの文化を尊重しながら暮らす姿や、高層ビル群に象徴される、今まさに経済発展している活気に満ちた街の様子を、生徒たちは肌で感じたようです。食事は、アジアンティスト溢れるビュッフェの朝食、飲茶の昼食、マレーシア料理の夕食とバリエーション豊かでした。マレーシア料理は少し辛めの味付けです。

3日目はペナン州の村へと移動です。ホテルを発ち、まずはクアラルンプールの市場見学へ。ここで地元の方々が朝食を摂る風景や、青果・精肉店などの様子を見て回りました。ガイドのウォンさんはマレーシア中央駅でお別れし、河野文音さんが生徒を代表して御礼の言葉を伝えてくれました。その後マレー鉄道で一路ペナンへ。列車内は始めはそれほど冷えていなかったのですが、段々と冷房が効いてきて、用意していた上着が役に立ちました。昼食は幕の内弁当。お米はパラパラではなく、おかげはサバの味噌煮、鶏の唐揚げ、卵焼きで、久しぶりの懐かしい味にホッとしました。車窓から見える景色は、都会の風景から徐々に緑あふれる自然へと変わっていき、約4時間かけてパリットブンター駅に到着しました。カンポン・レラウ村のホストファミリーと対面し、緊張しつつも笑顔で握手を交わして、それぞれの御宅へ向かいました。

4日目の朝9時ごろ、制服で正装した生徒たちは訪問先の学校に到着。緊張した面持ちでバスから降りると、先生、生徒の方々が歓迎の太鼓(kompang)の演奏とともに

出迎えてくれました。既にたくさんの生徒が体育館に集まっており、親睦を深める歓迎行事がスタート。まず本校の生徒たちがステージでソーラン節を披露しました。力強い踊りに会場から大きな拍手が起きました。次に全員でラジオ体操を披露。途中から会場の生徒も一緒に体操をしてくれました。女子生徒の数名は今回浴衣で参加。珍しかったようで、皆さんとても喜んでくださいました。その後は、全員が現地の生徒たちと交流しながらマレーシアの伝統的な遊びを体験。伝統的な帽子、人形、本などもたくさん展示され、美味しいお菓子の用意までしてくださり、心のこもった歓迎を受けて、かけがえのない思い出ができました。

午後の活動では、針の無いみつばちのはちみつ工場でのレクチャーを受け、試食。その土地ならではの貴重な体験ができました。

5日目、ホストファミリー宅での2泊目が明けて、生徒たちは昨年完成したばかりの村のファームステイ施設に集合。午前中と午後の前半は英語教室を体験しました。講師は現地出身、現在大学で教鞭をとるイシャムさんです。午後の授業が始まると東南アジア特有のスコールが降り始め、激しい雨音に驚きましたが、幸い1、2時間後に雨は止みました。石田琳さんがイシャムさんに御礼の言葉を伝え、今日の授業は終了。午後の後半はセパタクローや、ココナッツの実をボールに使うボーリングなど現地の遊びを体験しました。また、色鮮やかな染め物バティックペインティングにも挑戦。素敵な作品が完成しました。

夕方にはホームステイ先のファミリーも集合して"Cultural Night"のお祭りが行われました。まず生徒たちのダンスから始まり、女子は「パプリカ」、男子は「女々しくて」を披露。息が合ったダンスとノリの良い音楽を、村の方々も楽しんで頂けたようです。その後は、村でダンスを教えている先生をセンターに、ダンスマッチの女性たちがキレの良いダンスを見せてくれました。ダンスは30分以上続き、途中から生徒たちもステージに上がって会場全体がダンスフロアになったかのような盛り上がりでした。生徒たちは、小さな子どもたち、ご年配の方々とも非常にうまくコミュニケーションを取り、短いステイの中でも気持ちを通わせることができていたようです。

6日目の午前中は、昨日からの英語教室を締めくくる発表が行われました。生徒たちはこの旅の印象を英語で発表。それらをもとにした詩が作られ、その詩を生徒たちが全員で分担し暗唱しました。その後、修了証書が授与され、ホストファミリーと村との別れを惜しみながら、ペナン島世界遺産のジョージタウンへと向かいました。

ペナン島ではガイドのエミリーさんの説

明を聴きながら、ミャンマー・タイ・中国系の仏教寺院、モスク等を見学し、歴史溢れる街並みを散策しました。ペナン島の海はとても美しく、またジョージタウンはウォールアートなど見所も多く、各国から観光客が訪れていました。夕食には中華系の料理「スチームボート」を堪能し、ホテルへ。マレーシアでの最後の夜を過ごしました。

7日目はマレーシアで過ごす最終日。午前中はホテル内の施設を利用するなどして、残り少ない時間を楽しんでいました。午後はペナン島にあるショッピングモールを訪れ、フィールドリサーチを行いました。声をかけても断られてしまうなどの困難もありましたが、無事に全員がリサーチを完成させることができました。協力してくれた皆さんは、写真撮影をお願いすると快く一緒に写ってくださり、一瞬の出会いではありますが、交流できた喜びがありました。リサーチの後はお土産を買ったり、マレーシアの食事やスイーツを楽しんだようです。

夕刻となり、いよいよマレーシアに別れを告げるときがきました。ガイドのエミリーさんとお別れし予定通りペナン空港を出発。機内食のサンドイッチを美味しく頂きました。乗り継ぎのチャンギ空港では20分ほどの遅延が出ましたが、生徒たちは落ち着いて過ごしていました。朝の機内では、ナイトフライトで少し疲れた表情も見えましたが、機内食を食べて元気を取り戻したようでした。飛行機は福岡空港へ到着。懐かしい日本へ戻ってきました。福岡空港では解散式を行い、生徒を代表して加藤小晴さんが、この旅で得たこと、かけがえのない出会いの数々、ガイドさんや添乗員さんを始め、この旅を支えてくれた方々への感謝の言葉を述べました。旅の締めくくりに相応しい立派なスピーチでした。福岡空港からの帰路、休憩を取った山田サービスエリアでは積もった雪に驚きつつ、冬の日本に帰ってきたことを実感しました。学校到着時には、全員無事に旅を終えたことにホッと胸をなでおろしました。

保護者の皆さまのご支援、関係の方々のお力添えのおかげで、この旅を行うことができました。この場を借りて、御礼申し上げます。この旅は、生徒たちにとって発見、体験、感動、笑顔、学びの多い貴重なものとなりました。この経験を今後の人生における糧とし、国際人として生きる土台として大きく成長してくれることと思います。準備段階から終了まで修学旅行を支えてくださった全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

Terima kasih! (ありがとうございました)

※9ページ目に写真を掲載しています。

APUコース後期プレゼン大会 APU・立命館コース主任 荒金 正治

1月22日（水）、本校大講義室にてAPU講座後期プレゼンテーション大会が行われました。4-4、5-4ではそれぞれ与えられたテーマに沿ってアンケート活動や調べ学習を行い、自分たちなりの結論を導き出しました。また今回は英語による発表ということもあり、発表直前まで入念な確認をしていました。この活動を通じて、生徒たちは思考力・分析力・表現力など、これから社会において必要になってくる力を養っています。今までの活動の総まとめとして5-4は特に立派な発表ができたと思います。また、4-4の生徒には今回の発表の経験を活かして、来年度はさらにステップアップしてくれることを期待しています。各学年のプレゼンについて、担当の先生方からのコメントです。

APU講座I(4-4) 担当:橋本

◆テーマ:「日本の文化を外国人に伝えよう!」

◆感想: 今回は日本文化の魅力をどのようにすれば外国人に伝えられるかをテーマに準備を進めてきました。前期と大きく異なる点はアンケート調査の結果を踏まえた内容にすることと、プレゼンテーションを英語で行うことの2つです。アンケート調査は11月にAPUで開かれる「天空祭」で日本人、外国人それぞれ50名以上を対象に行うとし、英語版のアンケート用紙作成に皆苦労していた様子でした。

その後、アンケート結果に基づいて考察したことを中心に資料の組み立てを行ってきました。その過程で多くの生徒たちが口にしていたのは、“日本人自身が知らないことが多い” “日本人が自らの文化を理解することではじめて外国人に伝えられる”ということでした。各グループ、調査対象は違えど、日本文化の奥深さを再認識することができたものと思います。

今回のプレゼン、最後の難関は原稿の英訳と英語の発声です。特に原稿に頼らず上を向いて大きな声で話せるようになるため、みな悪戦苦闘していましたようです。

発表当日、最初は緊張した面持ちだった生徒たちも本番では不安を吹き飛ばすパフォーマンスを見させてくれました。今回のプレゼン大会を通してまた一步、成長した姿を見てくれた生徒たちには、今後さらなるレベルアップを期待しています。

・グループA:「日本の妖怪」

♦ユニーク賞♦

・グループB:「Japanese Sports」

♦最優秀賞♦

・グループC:「Japanese Seasonal Event」

♦TA賞♦

・グループD:「日本文化～和菓子～」

♦優秀賞♦

APU講座II(5-4) 担当:坂本

◆テーマ:「人生は冒険や!!」～イスラムへの旅～

2020年2月に行われるマレーシアへの修学旅行を前に、少しでもイスラムの文化・生活・習慣を学ぼうという目的で考えたテーマです。

- ①イスラムの国や地域がどのように広がり、どのように生活しているのか。
- ②様々なイスラムの国の人々の生活上の困りごとを発見することができたか。
- ③モノづくりのアイデアや技術を誇る日本から、どのようなお土産を持って行ったら喜んでもらえるだろうか？

※上記のようなテーマで、各グループが提案をしました。

◆感想: イスラムの人々の生活や習慣、そしてその困りごとを画像や文章から発見し、高校生のできる範囲で役に立ちそうな日本のアイデア商品をお土産に持って行こうという趣旨のプレゼンでした。直前まで不安が払拭できないグループが多くたのですが、土壤場の力で何とか良いプレゼンに仕上げてくれたと思います。
以下は、それぞれのグループの内容です。

・グループA: “Jordan” (対象の国はヨルダン。ヨルダンの住居内の画像から、不便と思われる台所の便利グッズをお土産にしました。包丁研ぎや肉も切れるはさみ、折り畳みボールと我が家にもほしいと思える商品でした。)

♦TA賞♦

・グループB: “file original プロフェッショナル仕事の流儀” (エジプトを選んだこのグループは「暑い」「砂」「住居のベランダが狭い」に注目していました。涼しさを感じられるハッカ油や狭い場所でも大量の洗濯物を干せるハンガーなど、多数の商品をお土産にしました。)

♦TA賞♦

・グループC: “YOUは何しにトルコへ?” (トルコの人々の生活を調べ、子だくさん

という点と絨毯づくりの職人が腰に負担がかかる点に注目していました。持つて行ったのは赤ちゃん用の爪切りやコーナーガード、そして腰を温める湯たんぽでした。プレゼンの最後に納豆を作るトルコアイスを実演したのも印象的でした。)

♦優良賞♦

・グループD: “バングラデシュの悩みを解決し隊” (圧巻だったのは電車にとんでもない数の人が乗っている画像でした。バングラデシュの人々の命を守ろうと転落防止のためのS字フックをお土産にしていました。この他にもフタックルという袋を容器にしてしまう商品など、面白い商品を考えていました。)

♦TA賞♦

・グループE: “パキスタンにDESIGNED IN JAPANをプレゼント” (最大都市カラチの街の画像から、道路整備の悪さやバイク・自転車の数に注目したり、食堂や市場のハエの多さに目をとめたりと、画像からの情報引き出しが秀逸でした。揺れる画面を作ったりなどの工夫も印象的でした。)

♦最優秀賞♦

・グループF: “MOROCCOのもろもろ” (モロッコが日本へのタコ輸出量ナンバー1という点に注目しタコ焼き器をお土産にしました。フルーツも豊富な国なので、それを簡単に食べられるフルーツカッターと食に関するお土産が目を引きました。タコ焼き器が意外に安いのには驚きました。)

♦優秀賞♦

★最優秀賞 グループE (藤原、河原、野地、ダバシ、尾野)

★優秀賞 グループF (渡邊、大野、郷原、今里、小野)

また、全体の中から、Best question賞にウネペティ・アヴェリアさん(4-4)、Best answer賞に百瀬大毅君(5-4)が選ばれました。



“今までありがとうございました。”

退任される先生方からのメッセージ

今年度をもって、5名の先生方が本校を去られることになりました。例年であれば3学期の終業日に全校生徒の前でごあいさつをいただくところですが、残念ながら今年はそれがかないません。そこで紙面にて皆さんに對してのメッセージをいただきました。

先生方にこれまで教わったことを振り返りながら、感謝の思いをあらたにしてもらえればと思います。

先生方の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

社会科・地歴公民科 吉本 久己生 先生

早いもので、岩田に着任して36年。色んなことがありました。皆様のお陰で何とか今までやってこられました。生徒の皆さん、保護者の皆さん、本当にありがとうございました。

1回生から37回生まで、岩田生は皆すばらしい生徒ばかりでした。特に最後の1年間は、個性豊かで可愛い生徒達と過ごすことができ、私の一生の思い出になります。私もこれから、充実した第二の人生を送りますので、皆さんも各自の夢や目標に向かって、勇往邁進下さい。

岩田生全員の更なる健闘を、心より祈っております。



数学科 小野 秀憲 先生

約14年、岩田にお世話になりました。あれは22回生が中3の2学期で、突然の赴任でした。

当時はエレベーターもなく、こういう所で勤まるのかなと不安で一杯でしたが、温かい生徒たちと理解ある学校側のおかげで、職務を全うできました。本当にありがとうございます。

ところで、世界は一向に平和になりませんね。戦争もなくならないし、今回のようにウイルス感染も突然起こります。人類の歴史はそういうものとの戦いでした。若い君たちにはぜひ、十分に勉強して、明るい未来を切り開いてもらいたいものです。岩田生をみていると、卒業してから、本当の力を發揮する人が多い気がします。潜在的なポテンシャルがあるのですね。

私は学校の近くに住んでいるので、また、結構うろうろしているので、どこかで会うかもしれません。そのときは、遠慮せずに声を掛けてください。では、さようなら。お元気で。



英語科 吉賀 源文 先生

平成22年4月から本校の教壇立つことになりました。生徒を前に授業するのは、十数年ぶりで、懐かしく、新鮮でもありました。25回生の授業をかわきりに、6年生の担当を八年継続しました。

本校勤務は長いようで短かく感じ、あっという間の十年間でした。『授業で勝負』をモットーにして生徒との触れ



合いが出来、私に活力をもたらしてくれました。毎日楽しく過ごさせて頂きましたことに感謝し、嬉しく思います。

生徒の皆様に一言、夢を大きく持ち続けて下さい。文学者の倉田百三も「夢を見るなどを止めたとき、その青春は終わりである」と言っています。夢は紡ぎ出すものです。夢を見ることができれば夢は実現するものです。将来への夢や希望を膨らませ、今後の人生を力強く、たくましく、積極的にまた意欲的に生き、可能性にチャレンジして欲しいものです。挑戦、チャレンジは、情熱を傾けて挑むこと、精進することです。

前途洋々たる生徒の皆様、誇りと自信を胸に、志を高く持ち、夢の実現に向けて自らの道を歩み続けてください。

国語科 阿南 誠治 先生

非常勤で10年間の勤務でした。心優しく、勤勉な生徒の皆さんとの日々は、とても充実した時間でした。特に、中三の生徒からのびっくりするような質問や、高三の生徒の熱心な学習態度が心に残ります。なかでも、26回生や32回生は私の教職45年の最後にとても美しい花を添えてくれました。心から感謝いたします。



この爺を「先生」と呼ぶ生徒(こ)らがいて
緑したたる岩田学園

岩田学園の生徒・卒業生・職員の皆さんのご健勝を祈ります。

数学科 高橋 依里 先生

「なぜ人は勉強をするのか」今まで生徒からもこんな質問をされたことがないですが、なぜかずっと考えてきました。皆さんなら、どう答えますか？自分の夢を叶えるため、悪い歴史を繰り返さないため、どれも正解ですよね。それでも、私の心はスッキリせずに別解を探し求めていました。長い数学の歴史でさえ未だに解決できていない問題がありますから、数学の参考書のSTEPやチャート式のようにすぐに答えを見ればわかるとは限りません。もしかしたら、この答えを一生かけて求めるのではないかと思っていました。しかし、突然でしたが岩田での入学式で新入生に向けての言葉を聞いて、ようやく私の答えが出ました。「皆さんの好きなスポーツやテレビゲームをするためにはルールを知らないといけません。そのルールを知らないと楽しめないです。知らなくても生きていけますが、知つておいた方が人生をもっと楽しむことができます。ルールとは人生において知識です。岩田でたくさん勉強しましょう」という言葉は私にも刺されました。なぜ勉強するのか、私の今の答えは「一度しかない自分の人生を楽しむ生きるために」です。それから、みんなにも数学を好きになってもらって、自分の人生を楽しく過ごしてほしいという気持ちで日々の授業を行ってきました。これからも、学びを深めていってください。



最後に、岩田での思い出は、数学の授業、学園祭、夏季訓練など、数え切れないほどあります。どれも私にとって大切な宝物です。生徒の皆さん、保護者の皆さん、3年間ありがとうございました。また、どこかで皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

新型コロナウイルスによる休校で、3月の学校はとても寂しい毎日でした。
新学期、皆さんの明るい笑顔を見られるのを楽しみにしています！

第11回校内英語ディベート大会が行われました

2月27日（木）、恒例の校内英語ディベート大会が行われましたので、その結果をお知らせします。

第1位 Team Squirrel (4 - 4)

細谷吉泰、何心鈺、佐久間望、柴田俊

第2位 Team DeLorean (5 - 4)

江藤新、河原礼徳、小野拓人、寺井岳

第3位 Team Yellow (4 - 3)

中丸梨夏、小柳卓也、山村壮史、山月義友

第4位 Team Blue

渡邊こころ (4 - 1)、野田彩加 (4 - 2)、

上運天里奈、局日菜子 (4 - 3)

ベストディベーター賞：4 - 3 中丸梨夏



強歩大会のスナップ



5-4修学旅行のスナップ



<http://iwata.ed.jp/>

ホームページやブログでCheck !



能力の差は小さいが
努力の差は大きい

脚力尽くる時、山更に好し。
輝ける未来へ、全力でサポートします！

February・March 2020

大分市岩田町1丁目1番1号

学校法人 岩田学園

電話：097(558)3007

FAX：097(556)8937

Email:iwata@iwata.ed.jp



21世紀の有為な人材を育成する
岩田中学校・高等学校